

別表 救急看護師のクリニカルラダー  
日本看護協会看護師のクリニカルラダーと救急看護実践例

定義	レベル		I	II	III	IV	V
	レベル毎の定義		基本的な看護手順に従い必要に応じ助言を得て看護を実践する	標準的な看護計画に基づき自立して看護を実践する	ケアの受け手に合う個別的な看護を実践する	幅広い視野で予測的判断をもち看護を実践する	より複雑な状況において、ケアの受け手にとって最適な手段を選択しQOLを高めるための看護を実践する
看護の核となる実践能力	意思決定を支える力	【レベル毎の目標】	ケアの受け手や周囲の人々の意向を知る	ケアの受け手や周囲の人々の意向を看護に活かすことができる	ケアの受け手や周囲の人々に意思決定に必要な情報提供や場の設定ができる	ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に伴うゆらぎを共有でき、選択を尊重できる	複雑な意思決定プロセスにおいて、他職種も含めた調整的役割を担うことができる
		【JNA行動目標】	□助言を受けながらケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□ケアの受け手や周囲の人々の意思決定に必要な情報を提供できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いが理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを他職種に代弁できる	□ケアの受け手や人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる	□適切な資源を積極的に活用し、ケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる
		【救急看護行動目標】	□助言を受けながら、危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の思いや考え、希望を知ることができる	□危機的状況にあるケアの受け手とその周囲の人々の思いや考え、希望を意図的に確認することができる □ケアの受け手や周囲の人々がそれまで生活してきた背景と思いと関連を意図的に確認することができる □確認した思いや考え、希望をケアに関連づけることができる	□危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定を行うために必要な場を整えることができる □ケアの受け手や周囲の人々が意思決定をする際に必要な情報を共に整理しながら提供することができる □危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定を行う際に必要となる意向の違いがあることを理解できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いをメンバーや多職種に代弁できる □ケアの受け手や周囲の人々の思いや考えを関連づけたケアをチームに働きかけることができる	□危機的状況にあるケアの受け手や人々の意思決定プロセスに看護職の立場で参加し、適切な看護ケアを実践できる □ケアの受け手や周囲の人々の意向の違いを調整し、チーム内でコンセンサス得ることができる □意思決定とそのプロセスを倫理的に考え、ケアの受け手や周囲の人々の状況（場・緊急性・重症度）を考慮しながらケアを展開できる □意思決定のプロセスや決定後の揺らぎに寄り添うことができる □決定意思には医療者が全面的に支援することを表明することができる	□適切な資源を積極的に活用し、危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々の意思決定プロセスを支援できる □法的および文化的配慮など多方面からケアの受け手や周囲の人々を擁護した意思決定プロセスを支援できる □ケアの受け手や周囲の人々の人生観と意思決定を統合的にとらえることができる
		<実践例>	■助言を受けながら、ケアの受け手や周囲の人々の語りを聞くことができる。 ■語りを指導者に報告し、指導を受けながら具体的な支援を考えることができる	■ケアの受け手や周囲の人々が危機的状況における理解や判断の状況を意図的に関わることで探ることができる 危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が行う理解や判断の過程に意図的に関わり、その状況を探る ■情報を整理し、ケアの受け手や周囲の人々の思いを知り意向や希望を知る ■必要時に支援を求めながらケアの受け手や周囲の人々の考えをケアに反映し、反応を確認、評価する	■ケアの受け手や周囲の人々が行う意思決定に必要な準備を整えることができる。たとえば、インフォームド・コンセントの前に意向や考え、疑問を確認する。事前に多職種と打ち合わせをする。タイミングや体調などを考慮する。プライバシーを守れる環境を調整する。 ■ケアの受け手や周囲の人々が意思決定をするために十分な情報を得ているか確認する。たとえば予後率などの数値的データ、治療成績、ケアの受け手の身体的データなど。 ■ケアの受け手や周囲の人々はそれぞれに価値観が異なることを意識し、意思決定における意向の違いがないかを確認し、時には個別に確認する ■ケアの受け手や周囲の人々に意向の違いがあるときには、その事実を多職種に述べ、合意形成の必要性を考えることができる	■危機的状況にあるケアの受け手や周囲の人々が意思決定するには、多くの葛藤があることをふまえ、その過程に寄り添うことができる。たとえば、感情を表出することを抑制しないよう働きかける。傾聴をし共感するコミュニケーションを取ることができる。どの感情も否定せずに承認する。 ■ケアの受け手や周囲の人々に意向の違いがあるときには、互いの意向の意味づけを承認しながら、誰のための意思決定なのかを働きかける。ケアの受け手と周囲の人々との間で合意形成できるよう、必要な情報を提供し、時に寄り添いながら支援する。 ■決定した意思は、時間制限のある場合以外はいつでも変更が可能であることを伝えることができる	■MSWや介護専門員、社会的リソースやケアの受け手や周囲の人々との親しい人や々々、コミュニティの力を調整し、意思決定のプロセスにケアの受け手の価値観が反映できるよう工夫する